

S 氏邸訪問記(2023.9.21)

1. はじめに

オーディオ仲間の中でも最高のハイエンドユーザーである S 氏がオーディオルームを新築され、システムの整備を行われたということで、オーディオ仲間とアナログ盤を準備して訪問してきました。

2. S 氏邸のシステムの概要と試聴対象

今回試聴させていただいた S 氏邸のシステムは下記のとおりですが、主にアナログを試聴させていただきました。オーディオルームを新築され、システム全般をオーディオ仲間諸氏の協力を得て全面的に整備されたとのこと。この他にも多くの名機の存在を見受けましたが、今回聴かせていただいたメインシステムに絞って紹介いたします。

スピーカー：TANNOY Autograph(Monitor Silver・オリジナルキャビネット)

プリアンプ：Marantz 7

パワーアンプ：Marantz 2×2

アナログプレイヤー：Tohrens TD126III BC Centennial

アーム：SME 3009

カートリッジ：Ortofon SPU-GE

ステップアップトランス：Ortofon T-3000

CD プレイヤー：Mckintosh MCD-7000

上記のアンプやプレイヤーの給電は上杉のクリーン電源供給システムから行っています。ケーブル類は新しくインフラノイズのリベラメンテシリーズの製品等で再構成していますが、まだ追加する箇所も残っているとのことでした。

当日の試聴システムの写真は以下のとおりです。



アナログプレイヤーシステム



プリアンプ



パワーアンプ



スピーカー

持参したアナログ盤は次のとおりです。

ACCENTUS MUSIC KKC 1171/3 (ダイレクトカットイング 45 回転盤)

スメタナ わが祖国

ヤクブ・フルシャ指揮バンベルク交響楽団

ドイツグラモフォン 4864177 (45 回転盤)

ウジェーヌ・イザイ 6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ

ヒラリー・ハーン

Angel AA 9117・C

ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

LONDON KIJC 9180/84

ワーグナー ワルキューレ

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

ウルトラアートレコード UA1004 (78 回転盤)

Oh lady be good 他

小川理子他

3. S 氏邸のシステムの試聴経過

TAANOY のユニットは、Monitor Red までは聴いたことがありますが、Monitor Silver 入りの Autograph は初めてです。なお、Autograph/Marantz/Tohrens のシステムが、最高のコンビネーションであることは、ショップの展示などで経験しています。最初に S 氏はお持ちの名盤から聴かせていただきました。

まず、めずらしいショパンのロンド C-Dur のポーランド盤で Stefanska と Stefanski の連弾では、品位のあるショパンらしい抒情性を湛えています。

次に、クナッパブッシュ指揮ウイーンフィルのワーグナーのワルキューレ ACT1 序曲ですが、ウイーンフィルの演奏はこうであったかという説得力があります。

ここで持参した盤から、ショルティ指揮ウイーンフィルのワルキューレ ACT1 序曲と ACT3 序曲を聴かせていただきましたが、ダイレクトコネクティングという手法でカットティングしなおした盤で、クリアな音であることは分りますが、少し潤い感が薄れ、先のクナッパブッシュ盤との違いがはっきり分かりました。

ヘンデルのメサイアは、合唱の各パートの分離、シュワルツコップのソプラノの歌唱、終盤のバスの歌唱とトランペット、通奏低音の下支えなど、古い録音ながら新鮮な印象で聴くことができました。

イザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタの 45 回転盤は、4 番を聴きました。本年 7 月の発売の新しい録音の高音質盤で、イザイの曲のきつくなるすぎる傾向もなく、倍音も胴鳴りもしっかり聴き取れます。

スメタナのわが祖国のダイレクトカットティングの 45 回転盤は、モルダウを聴きましたが、45 回転盤のレンジ感と最近の録音の広いダイナミックレンジによく追従できています。

小川理子の 78 回転盤は、リアルであるだけに迫力がありますが、逆にミキシングの作為的なところも分かってしまいます。

先のアナログ盤との比較ということで、クーベリック指揮チェコフィルのモルダウの CD を聴かせていただきましたが、先に聴いたアナログ盤のレベルの高さを印象つける結果になりました。

再びアナログに戻って、ケルテス指揮ロンドン響のドボルザーク 4 番は、中欧の牧歌的雰囲気味わせてくれました。

イ・ムジチのヴィヴァルディの四季に関して、国内盤とマーキュリーの外盤を比較しましたが、その差は歴然としていました。

同行されたオーディオ仲間は、全体を通して柔らかな音でありながら、細かいところまで漏らさず描き分けているとのご感想でした。

4. まとめ

ハイエンドのヴィンテージシステムの見本みたいシステム構成の音を堪能させていただきました。

録音の新旧、通常盤と 45 回転と 78 回転の高音質盤を問わず、品位の高い最高の再生パフォーマンスを示し、新たに加えられたインフラノイズのケーブルがこういったハイエンドシステムでも十分に支えていることも認識できました。

今回、TANNOY のユニットの **Monitor Silver** が一番の興味のあったところですが、誤解を恐れずに言えば、ウォームで親しみやすく、少し華やかな **Monitor Gold** や謹厳で緊張感のある **Monitor Red** に対し、いぶし銀のような要所を抑えた表現の **Monitor**

Silver という印象を持ちました。

以上